

NPO 法人

全日本語りネットワーク

2011. 1. 30 発行

〒376-0045 群馬県桐生市末広町 11-1 JR 駅構内
桐生市民活動推進センター

(Fax) 0277-47-4066 (振替) 00130 - 2 - 114808

(E-mail) welcome@japankatarinet.jp

(HP) <http://japankatarinet.jp/>

ニュース

うさぎ年に思う

平野美和子（北海道札幌市）

“うさぎ”で思い出すのは、高校時代の“うさぎ狩り”、旧制中学の伝統行事の復活(?)として行われたものです。一月の釧路郊外の牧草地、だるまのような着膨れと長靴のいでたちでスクラムを組んだ生徒が、丘の上から声を出し、枯れた牧草の上うっすらと積もった雪を踏みしめながら、うさぎを追いこんでいくのです。参加者は500名以上でしたが、獲物はたった一匹。今では笑い話となっていますが、寒い北風もどこかへふっ飛ばした爽快感と、「やったあ!」という充実感の貴重な体験でした。

さて、北海道では、図書館などでおはなしが語られ始めてから約30年になります。ぼちぼちの歩みながら、少しずつ認知されてきました。しかし、小学校でのおはなし会の後、聞こえてくるのは、「読んでくれて、ありがとう」との声なのです。子どもたちからだけではなく、先生方からも…

以前、語りを大人の方に知っていただきたく年一度企画した“おはなし会”も、回を重ねる毎に、楽しんでくださり、リピーターも増え、今では、年4回の開催となりました。

また、語り手も徐々に増え、5年前に語り手たちの交流と情報交換を目的に“北海道語り手ネットワーク”もできました。毎年、道内各地で主催の“おはなし会”を開いてきましたが、語り手の公募も、締め切り後の電話依頼が、最近では先着順でお断りするほどです。一般の認知度は、前記の通りなのですが、“うさぎ狩り”のように、獲物(?)は少なくとも、関わっている人たちの満足度は高いようです。

目のかすんできた年老いたウサギの神様が、自分の失敗談を語り、状況判断ができなくなったら家を出るな、と、老人への教訓を説いているアイヌの昔話(イソポ・カムイ)がありますが、語りに関しては、「欲張らないからもう少し、頑張らせて!」と声を大きくしたいものです。

ウサギのように軽やかに、ひとつ跳びできる一年でありますようお願いしています。